

デーヴォ ガイド



2022.4.11-17

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



12:23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。」

12:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

12:25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。

12:26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。

12:27 今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください。』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。

12:28 父よ。御名の栄光を現わしてください。」

そのとき、天から声が聞こえた。「わたしは栄光をすでに現わしたし、またもう一度栄光を現わそう。」

12:29 そばに立っていてそれを聞いた群衆は、雷が鳴ったのだと言った。ほかの人々は、「御使いがあの方に話したのだ。」と言った。

12:30 イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためにではなくて、あなたがたのためにです。」

12:31 今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。

12:32 わたしが地上から上げられるなら、わ

たしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」

12:33 イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである。

20節から見ますと、ギリシャ人でさえイエス様を受け入れようとしていたことがわかります。それは成功への誘惑にもなることでした。イエス様がこのまま彼らの先生として活動すれば、楽に教えを広められるでしょう。しかし、そのようなときにイエス様は苦難の道を歩むべく、決心を新たにされました。

イエス様はご自身が死ぬこと。そして信仰を貫くことは、イエス様の弟子となる必要があることを語られました。それは弟子たちの将来を思っただけのことでした。将来には苦難が待っていたからです。

そのような中で天の父はイエス様を励ますべく、御声を表されたのです。一連のことは天の父のご計画でありました。主のために、その使命を果たすように決心した者を、主は励まし栄光を表してくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 火曜

ヨハネ



13:3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行くことを知られ、

13:4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

13:5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。

13:6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに來られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」

13:7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」

13:8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗いにならないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

13:9 シモン・ペテロは言った。「主よ。わたしの足だけでなく、手も頭も洗ってください。」

13:10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」

13:11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない。」と言われたのである。

13:12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着て、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。」

13:13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。

13:14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。

13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。

足を洗うとは当時は奴隷の仕事でした。イエス様は愛を表し、またご自身が仕えるために地上に來られたことを表すために、進んでそのことをされました。全能であり絶対的な権威を持ったお方が、今も私たちを愛するゆえに、奴隷のようにみわさをなさっておられるという、この驚くべき事実実に感謝しましょう。

ペテロはイエス様に奴隷の仕事させられるのを申し訳なく思い、「洗わないでください」と言いましたが、それでは「何の関係もない」と、イエス様は言われました。このことから分るのは、もしも私たち不完全な人間が、何か善行をしたことによって神様を交わってもらえると思うならそれは不可能な話だということです。実際は罪を哀れんでいただいて洗っていただくところから、交わりが始まるのです。そのような自分であることを忘れて高慢にならないように気をつけましょう。安心して主に洗っていただきましょう。

イエス様は奴隷の仕事である“洗足”を行って、模範を示されました。「互いに足を洗い合うべきです」というのは、互いに相手のしもべとなって仕えるべきだということです。これはクリスチャンの人間関係の基本であり、教会のあるべき姿です。仕えてもらう者は世の中では偉い人のようですが、神の国では逆なのです。

もしも仕えることが嫌ならば、その人はイエス様よりもまさった者になってしまいます。「しも

べはその主人にまさるものではない」のですから、私たちがイエス様よりもまさったものになってしまうのは、当然おかしい話なのです。世の偉い人のようにお世話してもらうことを嬉しく思うよりも、仕えることを誇りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 水曜

ヨハネ

19:1 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。
19:2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。
19:3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と言い、またイエスの顔を平手で打った。
19:4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」
19:5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です。」と言った。
19:6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ。」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」
19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちに律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」
19:8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。
19:9 そして、また官邸にはいて、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。
19:10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたが釈放する権威があり、また十字架につ



ける権威があることを、知らないのですか。」

19:11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

19:12 こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」

19:13 そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石（ヘブル語でガバタ）と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

ピラトはイエス様を痛めつければ、それでユダヤ人たちの気が済むと思い、鞭打ちにします。しかし人間的な思いつきでは人は変わることはありません。あくまでも「十字架につけろ」との叫びは収まりませんでした。

人は聖霊によらなければ、イエスをキリストと告白することはできません。すなわち救い主として信じることはできないのです。またクリスチャンも聖霊によらなければ、人格に実を結ぶことはできません。聖霊によらずに、感情だけなだめようとしても無益ですから、聖霊を求めましょう。

さらにピラトのように、鍵を握る人が自分を守ることに終始していたら、事態が収まるどころかますます悪くなります。この時点で、ピラトには「何の権威も」ないのです。

聖霊による権威を主からいただいで、解決に臨みましょう。イエス様は全く弱い立場におかれながらも、その権威によって神のご計画を全うしたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 木曜

ヨハネ



19:14 その日は過越の備え日で、時は六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」

19:15 彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかには、私たちに王はありません。」

19:16 そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。

19:17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスのご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれた。

19:18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真中にしてであった。

19:19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス。」と書いてあった。

19:20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。

19:21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください。」と言った。

19:22 ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

「（皇帝）カイザルにそむく」という言葉を出されて、ピラトは苦渋の選択をしました。「イエスは

十字架につけるために彼らを引き渡した」のです。彼はイエスを助けたいと思っていましたが、それは真理のためや神のためではなく、ただことを荒立てたくなかっただけなのです。

自分さえがまんすれば丸く収まるからがまんするの、美徳のようではありませんが、真理のため神様のために勇気をもって決断しているかが問われます。

イエス様はそのような気の弱い支配者に翻弄されるのですが、神様のご計画とその主権は変わらないことがわかります。「ユダヤ人の王」というのは、すなわち旧約に預言されたキリストであることを意味しますし、ヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書かれたということは、ユダヤ人、ローマ人、ギリシヤ人という当時世界を代表する文化に対して、それぞれの救い主であるということが暗に表されているのです。

カイザルのようなこの世の権力よりも、偉大な神の全能に沿っていく勇気を持ち、永遠に変わらない希望を見ながら、決断しつつ歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

19:24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった。

19:25 兵士たちはそのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロバの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

19:26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。

19:27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

19:28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く。」と言われた。

19:29 そこには酸いぶどう酒のいっぴいはあった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。

「十字架につけると」と、聖書では簡潔に書かれています。十字架刑は体に釘が打たれるだけでも激しい痛みですが、それだけではありません。体を貫

通した釘に体重がかかって、激痛と大量の出血が起きます。また肩にかかる力によって、呼吸困難になり、恐ろしい苦しみがかかります。肩の関節や肋骨も歪み、はずれたことでしょう。イエス様は全身から血を噴き出させながら、体を激しく震わせたと思われます。そのような状況で以下にある出来事が起きました。

「下着」とは一枚の大きなもので、物資の乏しかった当時は、一生大切に着るものでした。多くは息子が12歳で成人するときに、母が愛情と祈りを込めて織ったそうです。それを面白がってくじを引くほどに、イエス様は嘲弄されたのです。さらにはそれを見ていた「イエスの母」マリヤは心が張り裂けるほどだったでしょう。

そのような苦しみさえ聖書に預言されていたのです。それは私たちが救うための神様のわざです。それほどにその愛は大きいということです。

またイエス様は耐え難い激痛の中で、母マリヤの今後を心配して、ヨハネに「息子」として面倒をみるように願いました。願いというよりは、ヨハネなら喜んでそうしてくれるという、信頼に満ちた宣言でもありました。

イエス様の心の中にはどんな状況でも、人に対する愛があるのです。イエス様は人としての弱さを持った状態で、そのように生きたのですから、私たちにも聖霊によってそれが可能であることを知って、主のために生きたいと願う人はそれを希望にしましょう。自分の愛を過小評価しないで、大胆に人を愛しましょう。

またイエス様からそのような無限の愛で愛されている自分の価値に感謝しましょう。何といってもイエス様の愛に感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

5:7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人がいるはいはいるでしょう。

5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

5:11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。

生きた信仰は患難のときに力を発揮します。この箇所の少し前にあるように、

「患難が忍耐を生み出し、

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。

5:5 この希望は失望に終わることがありません。」とあるとおりです。

それは信仰による救いをいただいた私たちクリスチャンに共通しているのです。

その生きた信仰がどこから来るかという、それは神様が罪びとをも愛して下さるという安心感にほかなりません。もしも正しい者だけが希望を持つのだとするなら、誰にも不可能なことです。必ず挫折

してまいります。

しかし、主は「まだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださった」と言われます。罪人であったときでさえ、愛をいただいているのですから、今も主に愛されていないはずがありません。

主の解決を信じましょう。どんな失望の中であっても、主にお任せして安心しましょう。その安心が続くためにも従いましょう。主を愛して従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20:11 しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。

20:12 すると、ふたりの御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとり頭のところに、ひとりは足のところに、白い衣をまとうてすわっているのが見えた。

20:13 彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」

20:14 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。

20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのですしたら、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」

20:16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ（すなわち、先生）。」とイエスに言った。

20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」

20:18 マグダラのマリヤは、行って、「私

は主にお目にかかりました。」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のものであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られて、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

マリヤは泣いていました。神である主イエスであっても死のままで、それは悲しみ以外の何ものでもありません。死の絶望の力はそれほどに大きいのです。

マリヤにとっては、希望もなく、どうしたらいいか全くわからない状況でした。心も弱くなって泣くしかなかったのです。解決などありませんでした。しかし、彼女はこのような状態の中でも、死んでしまった後でさえ、イエス様から離れなかったのです。いや遺体がなかったのですから、離れまいとしたのです。だからここで復活のイエス様にお会いすることができました。

彼女には何を悟れるような状態ではありませんでしたが、イエスご自身が彼女に分るように現れてくださいました。

何があってもイエス様から離れないようにしましょう。たとえイエス様がもういなくなっているように感じるような絶望の中でも、イエス様を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

